



私たちの

しょうわ 町議会

2008

No

138

7月25日号

みんな真剣なまなざし!!



常永小3年生校外学習(役場見学)

● 6月定例議会

◆発行／山梨県昭和町議会
〒409-3880 山梨県中巨摩郡昭和町押越542-2
TEL. 055-275-8842(直通)
TEL. 055-275-2111(代) FAX. 055-275-5250
<http://www.town.showa.yamanashi.jp/>
(昭和町議会ホームページ)

◆発行人／議長 浅川武男
◆編集／議会広報編集特別委員会

こういことが決まりました……2～5ページ

山梨学院大学と連携し地方議会改革推進……6ページ

7議員が一般質問……7～13ページ

委員会レポート……14ページ

視察研修報告……15ページ

昭和町に住んで良かった!……16ページ

決まりました



平成20年第2回定例会

平成二十年六月定例会は、六月十六日から二十日までの会期五日間で開かれました。この議会には町長から平成二十年度の一般会計・特別会計の補正予算二件のほか、条例の改正・廃止五件、人事の同意二件、契約の承認一件、財産の譲渡五件が提出されたほか、報告が四件あり、審議の結果いずれも原案の通り可決、同意、承認しました。

このほか議会への請願三件を審査して一件を趣旨採択とし、二件を採択した上、議員提出の意見書二件を採択して国の関係機関に提出しました。

一般質問は七人の議員が当面する町政の課題について町の考えをただし、活発な議論を展開しました。

一般会計補正予算

増額
636万円

総額78億3,236万に

○一般会計補正予算

(第1号)

六三六万円の小幅な増額補正で、補正後の予算総額は七八億三、二二六万円になりました。

【補正の財源】

・固定資産税

三八〇万円

・助成金ほか雑入

二五六万円

【おもな使いみち】

・議会費 九九万円

・本会議場のマイク修理

点検代

・総務費 二〇三万円

・四万省大地震に伴う都

江堰市友好協議会臨時負

担金五〇万円、データ入

力費、備品購入費ほか

・民生費 六八九万円
障害者福祉、国保窓口
無料化の電算システム導
入費、老保会計への繰出
しほか

・衛生費 一五万円
・土木費 △六三〇万円
都市計画費の減額、公
園の設計、検査、工事費
の増額

・教育費 二五九万円
和太鼓の輪の会補助二
五〇万円ほか

※全員賛成で可決

○老人保健特別会計補正

予算 (第一号)

・補正額

二、八七九万円

予算総額は一億三七九

万円になりました。

【補正の財源】

・支払交付金

二、〇一〇万円

・国庫支出金

五七九万円

・県支出金 一四四万円

・一般会計から繰入れ

一四四万円

【おもな使いみち】

・医療給付費

二、五七四万円ほか

※全員賛成で可決

条例の 改正・廃止

・国民健康保険条例の改正

後期高齢者医療制度の

支援金の創設に伴う改正

※賛成多数で可決

・町営住宅設置及び管理

条例の改正

県警との連携により、

公営住宅から暴力団員の

入居を排除するため、県

内各市町村が条例を改正

するもの。

・町税条例の改正

地方税法改正に伴い、

町長が認める固定資産に

ついて税の減免による救済

を可能とするための改正

・高度技術工業開発促進

のための固定資産税の不

均一課税に関する条例の

廃止

高度技術工業集積地域

開発促進法の廃止に伴う

もの。

・特定事業集積促進のた

めの固定資産税の不均一

課税に関する条例の廃止

特定事業集積促進に関

する法律の廃止に伴うも

の。

※全員賛成で可決



町営住宅解体撤去工事現場

6月議会で こういうことが

契約の承認

・第二期町営住宅建替に伴う解体撤去工事請負契約の締結

(契約の方法)

公募型指名競争入札

(契約金額)

二、四一五万円

(契約の相手)

甲府市

山本基礎工業(株)

※全員賛成で承認

人 事

固定資産評価審査委員に

丸山清次氏



(紙漉阿原)

畑野泰六氏の任期満了に伴い選任され、議会はこれに同意しました。

教育委員に 曾根眞由美氏



(西条)

教育委員、角野佳男氏の退任に伴い任命され、議会はこれに同意しました。

報 告

平成十九年度の一般会計継続費、繰越明許費、事故繰越および下水道会計繰越明許費の四件の繰越計算書が報告されました。

墓地となっている町有地を
各寺院に譲渡

○普通財産の無償譲渡

町有地を墓地として使用している押越の宗教法人正法寺と本妙寺、河東中島の浅間寺、飯喰の西方寺と浄安寺から、町の

公有財産管理規則に基づき譲与申請があったもので、議会は全員賛成で無償譲渡を認めました。



寺に無償譲渡される町有地

請 願

2件を「採択」、1件は「趣旨採択」

子宮頸がん^{けい}予防ワクチンに関する意見書の提出を求める請願

〈採択〉

請願者 昭和町上河東

尾曾 正子

紹介議員 河田あけみ

【要旨】

若い女性にまで発症が広がっている子宮頸がんは死亡率が高く、毎年約二、五〇〇人が死亡している。HPVウイルスにより感染する子宮頸がんは、ワクチンの開発が進み、「予防可能ながん」といわれている。ワクチンはアメリカなど八〇カ国で承認されているが、日本ではまだ承認されていない。予防、早期発見のため国の取り組み推進を求める。

※請願と同趣旨の意見書を政府関係機関に提出しました。

(提出先)

内閣総理大臣
厚生労働大臣

教育予算を拡充し、教育の機会均等及び水準の維持向上を図るための請願

〈採択〉

請願者

昭和町地区PTA協議会

会長 原田美直子

昭和町校長会

会長 入倉 正幸

昭和町教頭会

会長 熊谷 正

事務局長 佐野 良

紹介議員 塚原 将司

保坂 明子

【要旨】

・義務教育費国庫負担制度を堅持すること。



教育厚生常任委員会

・地方交付税をふくむ国の教育予算を拡充すること。
・少人数教育を実現するため教職員定数の改善を図ること。

昭和町「郷育の日」制定のための請願

〈趣旨採択〉

【要旨】

近年、子どもたちを取り巻く環境が急速に変化している。家族や地域においても、受け継がれてきた伝統・文化、子育てに関する知恵や経験の伝承が途切れている。

地域社会に教育の重要性や道徳・倫理の大切さを訴えかけることで、これらの問題を解決していく必要がある、そのため

「郷育の日」を制定し、学校、家庭、地域全体で教育について考え、町民総参加で取り組んでいただきたい。

用語解説

「趣旨採択」

請願や陳情について、妥当であるが実現性の面で確信が持てない場合や、要望をそのまま認めることは困難であるが、趣旨が妥当と認められるもの。

しかし、議会で決定したことの重みは大きく、趣旨がくみ取られ一部施策に反映されることもある。

決まりました

6月議会で こういうことが

第1回 臨時議会

五月九日、午前十時半、全議員が出席し開催されました。

【議決事項】

▼農業委員の推薦

小沢 馨

保坂武彦

坂田榮一

※三氏を議会推薦しました。

▼バス購入契約の承認

二九人乗りバス購入契約の件。

(契約金額)

九九一万五、一一〇円

(契約の相手)

山梨日野自動車(株)

※全員賛成で可決



議会推薦3氏を代表し、あいさつする小澤農業委員

▼専決処分の承認

一般会計補正予算

(第6号)

補正額 三、八一八万円

予算総額は八七億八、

〇一一万円に。

へ補正の財源

自動車重量税、自動車

取得税交付金三、〇七五

万円、国庫補助金三四二

万円、財産収入四〇一万

円

へおもな支出

高齢者医療導入事業を

増額、剰余金三、五二四

万円を財政調整基金に積

み立て。

※全員賛成で可決

▼町税条例の一部改正

地方税法の改正に伴うもの。

※全員賛成で可決

▼委員会の継続審査の件

※全員賛成で可決

6月議会の会期日程

第一日目

六月十六日(月)

▼開会 午前十時

・本会議

・会議録署名議員の指名

・会期の決定

・諸報告

・議案の上程・説明

・議案に対する質疑

・議案の委員会付託

・一般質問

第二日目

六月十七日(火)

・水源対策特別委員会

・地方分権対策特別委員会

・閉会

第三日目

六月十八日(水)

・教育厚生常任委員会

第四日目

六月十九日(木)

・産業土木常任委員会

・総務常任委員会

第五日目

六月二十日(金)

・議会運営委員会

・議員協議会

・委員長報告

・委員長報告に対する質疑

・討論

・採決

・閉会



臨時議会本会議

山梨学院大学

ローカル・ガバナンス研究センターと協定

— 議会と大学研究機関で、地方議会改革推進 —



連携に関する協定調印式

去る五月二十二日、昭和町議会と山梨学院大学ローカル・ガバナンス研究センターが、連携に関する協定調印式を行いました。

ローカル・ガバナンスは、政策立案や議会活動を、自治体・議員だけでなく、住民や大学の研究者、地元企業などの多様な主体が参画して進めようという試みで、地方分権が進む中、地域力を再生させる新たな地方経営手法として、注目されて

います。

昭和町議会では、町民に開かれた議会を目指すために、昨年七月に議会改革推進委員会を立ち上げ、検討してきました。

1、学ぶ議会
2、行動する議会
3、改革・革新する議会
を目標に掲げ、できることから実施してきました。地方分権時代の地方議会のあり方を調査・研究し、町民に信頼される議会の構築を目指すことを目的としています。

今回の協定の内容は、

昭和町議会に対し、ローカル・ガバナンス研究センターが、研修・政策提言・コンサルティングなどを行い、議会改革を支援するというもので、政策の提言にあたり、学生と議会との交流会、重要課題の調査研究・研修会や、研究を踏まえて学生が議場で質問を行う、学生議会などが計画されています。

地方自治体の議会と、大学の研究機関が連携し、改革に取り組むのは、全国で初めての試みです。

昭和町議会改革の第一歩として、議会議員研修会がスタートしました。

第1回・議員研修を実施



地方議会をめぐる法制度についての勉強会

日 程	テーマ
6月17日(火)	地方自治の法制度
7月15日(火)	地方分権の動向と議会の役割
9月 5日(金)	地方自治と自治会・町内会(仮題)
10月21日(火)	地域福祉政策(仮題)
11月18日(火)	環境政策(仮題)
12月16日(火)	行政改革と議会の役割(仮題)
1月20日(火)	国際化と地域社会(仮題)
2月17日(火)	健全化法と地方財政(仮題)

平成二十年度の議員研修は、来年二月まで八回計画され、山梨学院大学ローカル・ガバナンス研究センターで、別表のとおり開催される予定です。単なる一方通行の講義ではなく、相互に課題を持ち寄り、そのテーマを解き明かすような実践的研修となります。

■学生議会の開催

研究を踏まえて学生が議場で質問、町の議員、執行部も参加予定です。日程 十一月上旬を予定。

・場所 昭和町役場議場



ここが聞きたい！ 一般質問



昭和町総合会館内にある福祉の窓口



深澤 平助 議員

Q 高齢者福祉行政について

A 町民の声を反映させ取り組む

問

①後期高齢者医療制度が四月に始まったが、この制度はきつぱり廃止し、元に戻すべきだと思うがどうか。
②後期高齢者は、従来、扶養家族で保険料を支払

う必要のなかった人も、有無を言わず年金から天引きされる。昨年の十二月議会で、低所得者、特にひとり暮らしで生活保護以下の高齢者には、町独自で保険料減免を措置することを求めた。再度、独自減免措置を求めるがどうか。
③介護保険が改定されて二年半が経過したが、負担が重荷で、利用を控えるケースも少なくない。支援策について伺う。
④地域包括支援センターの平成十八年度の相談件数は六九三件で、前年度の五四〇件から大幅に増加している。この役割をさらに強化し、業務の増加に備えるため、欠員になっている社会福祉士の配置を急ぎ、センターの三人体制が望まれている。町長の考えを伺う。

答

町長 ①後期高齢者医療制度は、その呼称を含め、不備や配慮を欠く面が多く、結果として、政府の対策が表層的になった。しかし、少子高齢化の進展で、医療保険制度のあり方に限界が

あることも、与野党の共通認識である。政府は、新制度の必要性、内容について、国民が納得できるよう説明し、問題点は迅速に改め、制度としては継続すべきと認識している。公平の原則を踏まえつつ、きめ細かな対策を早急に講じてもらいたい。
②保険料の減免措置については、政府が低所得層に対し配慮する方向で、見直し作業に入った。町独自に、後期高齢者の特定健診を無料化するなど、高齢者に優しいまちづくりを進めてきたが、保険料については、町独自の軽減措置は制度の理念を揺るがすことになり、広域連合の枠組みの中で検討すべきと考える。
③次に、平成十九年度、介護保険会計から高額介護サービスに約五〇万円、食事・居住費の負担軽減を行う特定入所者介護サービスに約一、五〇〇万円の給付を実施しており、これ以上の軽減となると、六五歳以上の介護保険料への影響もあり、

問

再質問 後期高齢者医療と介護保険に対し、独自の施策として、負担軽減を求める切実な声がある。
④地域包括センターは二年が経過し利用者も増加、特定高齢者の予防事業や要支援者への予防プラン作成など作業量も増えた。職員数の配置基準は満たしているが、きめ細かな対応をしていくため、相談業務や社会福祉士は、委託する方向で現在調整している。

答

町長 町民全体が公平に、行政サービスを受けられることを基本に町政に取り組んでいる。即答はできないが、軽減措置について、真剣に検討する。

こ こ が 聞 き た い !

一般質問

Q

災害時における
飲料水の確保は

A

耐震性貯水槽設置などの
対策を急ぐ

塩澤 浩 議員

問

中国では四川省の被害甚大な大地震、国内では岩手宮城内陸地震が発生、改めて地震の恐ろしさを痛感した。

整備中の押原公園は、

町内初の耐震性貯水槽を設置、容量は一〇〇トンと大きく、緊急用トイレマンホールも一〇〇基あり、完成すれば防災拠点として、活用が期待される。しかし、このほかに避難所に指定されている五カ所では、緊急時に飲料水の確保は難しいのではないか。一日一人三リットルの飲料水が必要とされるが、現在、備蓄している一・五リットルのペットボトル八〇〇本で

答

は、不足するのではない。地域防災計画を早急に見直し、耐震性貯水槽とトイレの整備をすべきだと思うが考えを伺う。

町長 押原公園内の耐震性貯水槽は、水



国母工業団地内にある防災備蓄倉庫と備蓄飲料水

道とつながっており、常に新鮮な水が流れ、非常時には、一人当たり三リットルの水を三日間、一万人に供給できる。三月には、避難所等に緊急給水できるタンク(約二トン)と、連結給水栓一式を購入し、甲府市上水道局の昭和浄水場から、給水を受ける確認をした。今年度中には、「災害時における生活必需物資の

調達に関する協定」を締結し、県中北地域の六市一町と、関係する民間企業と提携し、飲料水等の調達ができるようにする予定。避難所の耐震性貯水槽については、今年度、防災会議で地域防災計画の見直しを検討する。簡易トイレ三六セットの備蓄に加え、リース会社と協定し、応急仮設トイレ確保の仕組みを築いていきたい。

(関連質問)

問

保坂明子議員 災害

時の備蓄一覧表には、生理用品、赤ちゃんや高齢者用のオムツがない。町としての対策は。

答

町長 指摘を受けるまで、考慮してこなかった。議員の意見を参考に検討する。

長期間放置された
盛り土の安全確保は

問

西条二区の昭和と水源

東側、押越・西条・新田線に面した場所に、長期間、土が大きく高く盛られたままになっていて、産業廃棄物なのかとの懸念があり、水源の近

くでもあるので、水質汚染も心配される。早期の調査と安全確保が望まれる。今後の見直し、管理状況、税務上の問題は、残土規制などの条例整備の必要性はないか、考えを伺う。

監視の継続と
所有者の特定を図る

答

町長 甲府市昭和浄水場東側のフェンス

に囲まれた民有地に、残土と思われる土砂が長期間、放置されている。町として指導したいが、登記簿上の所有者である法人は現在はなく、実態としての所有者、管理者も判明していない。周辺地域の井戸での、汚染物質等の異常データは出ていない。町で監視を行っているほか、県も不法投棄パトロール個所として巡回監視している。今年五月のコンクリートを含む残土投棄には、県職員とともに搬入業者に指導を行った。今後、現状の改善に向け、所有者の特定を行い、適正管理等の指導を図りたい。

町政を問う

Q 地球温暖化対策の推進と今後の対策は

A

目標設定と成果検証をめざす



河住 保茂 議員

問 近年、環境問題の一つとして、地球温暖化が注目されている。地球温暖化とは、人間活動に伴って発生する二酸化炭素等の温室ガスにより、地球全体の気温が上昇すること、この状況が続けば、さらに地球気温の上昇により、生態系への影響も懸念される。

平成九年十二月に開催された、気候変動枠組条約第三回地球温暖化・京都会議で、日本も温室ガスの総排出量の六％削減を約束した。

平成十一年四月、地球温暖化対策の推進に関する法律が制定され、地方自治体に対して、温室効

果ガス排出抑制のため、実行計画の策定が義務付けられた。十四年三月、昭和町は「地球にやさしいオフィスを目指して」を策定、役場の管轄するすべての事務・事業に關し、温室効果ガスの排出抑制を図るとともに、町民・事業者の自主的な取り組みを促してきた。十八年度までの五年間の対策と効果の検証について伺う。その後も、事態は深刻さを増している。豊かな地球環境を、次世代に引き継ぐため、今後の対策について伺う。

答 町長 町の地球温暖化対策実行計画は、当初の計画通りには実行できなかった。検証が思うようにできず、成果の公表をすることなく、現在に至っている。原因は、推進体制が構築できなかったこと、成果が分かりにくかったことだ。通



7月に実施した廃食油回収キャラバンの様子

常業務が優先され、データの収集等の地道な作業が後回しにされた。反省を踏まえ、専門部署を設けるのか、外部に委託するのか、協議する必要がある。協議結果を今後の取り組みに反映させ、成果を公表できるようにしたい。

ゴミの分別収集、資源

回収ステーションの設置などで、町民にはリサイクル意識が広く浸透している。町としても、太陽光発電への補助、マイバツクの推進、庁内の紙の再利用、グリーン製品の活用、プラスチックゴミの分別、消灯の励行、クールビズの採用、さらにハイブリッドカー・BD

F車の導入、ノーマイカーデー等による二酸化炭素削減に取り組んでいる。また、ふるさとふれあい祭りのリユース食器も、啓蒙活動に役立っている。

七月五日には、町民有志が結成した「人と環境・すつきりしょうわ」のみなさんが、生協の廃油回収キャラバンに協力する。このような町民の盛り上がりを支援することにも、啓蒙、実践を図ることが行政の役割と認識している。環境保健委員や地球温暖化防止活動推進員との連携を図り、情報提供や環境学習の機会を設けるなど、積極的に働きかけていきたい。

問 再質問 県でも年内に条例を制定すると聞くが、昭和町には一六の課がある。共通目標、各課ごとの目標や、環境委員会、協議会等を設置し、きめ細かく数値的に設定して取り組みれば成果が出るのでは。

答 町長 数値目標等十分検討し、努力していきたい。

こ こ が 聞 き た い !

一般質問

Q

常永駅駐輪場の整備拡張を

A

総合的に駅周辺の整備を図る



塚原 将司 議員

問

常永駅は、平成十年の改築工事で駅舎が小さくなった分、駐輪場が若干広くなった。しかし、ここ数年、自転車による駅利用者が急増している。高校の全県一区制により、多くの生徒が公共交通機関を利用するようになったこと、通勤者もガソリン代等の値上げにより、マイカーから電車通勤に変わったことによると推測される。自転車車が二五〇台から三〇〇台と、バイクが一〇台から一五台が置かれ、タクシーの待機スペースにも駐輪するなど、散々な状態だ。駅前道路が狭いこともあり、はみ出して

自動車のすれ違いに支障がでている。いつ事故が起きても、おかしくない状況にある。

解決策として、現在は駐車場になっている、駅西側の土地を買い上げ、駐輪場にしてはどうか。

土地所有者は、現状をよく理解しており、行政当局より話しがあれば、検討する意志がある。利用者の多い中央市とも協議して、早期の予算化、実現を望むがどのように考えるか。

答

町長 本町の国母駅

と常永駅の駐輪対策は、峡中広域シルバー人材センターに業務委託し、月・水・金の週三回、朝七時から九時まで、各一名が整理整頓を行っている。五月には、「昭和町自転車等の放置防止に関する条例」により、両駅で約一八〇台の放置自転車を撤去した。



常永駅前の駐輪風景

常永駅には町営の駐輪場はなく、地域の協力も得て、ほぼ毎日、広場を整理整頓しているが、ご指摘のごとく苦慮している。当面は、前記の対策

を強化する方針だが、常永土地区画整理事業の進展に伴い、ますます利用者の増加が予想される。駐輪場を含めた、総合的な駅周辺の整備を検討していきたい。

ていきたい。
(要望)

塚原議員 常永駅整備は、

常永土地区画整理事業に併せ、JR東海とも協議して、施策展開すること要望する。

(関連質問)

問

萩原 馨議員 中央

市に先日、ロックタウンがオープンした。昭和町にもショッピングセンターができる。駅利用者の増加を見越し、行政、住民、ショッピングセンター、JR東海等による協議会を設け、総合的に対応してはどうか。

答

町長 常永土地区画

整理事業も、今年度から工事着手の段階になった。町が協議会の組織づくりに動くには、厳しい状況にあるが、昭和町第五次総合計画には、常永駅周辺も対象として位置付けられている。検討していきたい。

町政を問う

Q

エコキャップ回収運動の
取り組みを

A

有意義な運動であり
取り組みを検討したい

河田 あけみ 議員

問

世界ではポリオ（小児マヒ）で、毎年多数の子どもが命を落としており、ワクチンがあれば命が助かる子どもが一日に約六千人もいると聞いている。国連のユニセフがワクチン接種を呼びかけており、日本では「エコキャップ推進協会」が中心となり、その収益金でワクチンを届ける運動を展開している。

ペットボトルのキャップ八〇〇個が二〇円で業者に販売でき、子ども一人分のワクチンが確保できる。

町の各施設や団体、小中学校、各地域を挙げてペットボトルのキャップ

答

町長 非常に有意義な運動であり、県内でもこの運動に取り組んでいる会社や学校があると聞いている。今後調査研究して、具体的な取り組みについて検討していきたい。

福祉センターの
必要性は

問

高齢者、障害者、子育て支援のサービス機関として、また住民ボランティアの拠点など、福祉の複合的な施設として福祉センターの建設が望まれているが、財政的には大きな負担となっている。そこで、これから常永地区の区画整理地内

に建設されるスーパー街区ショッピングセンターの一部に、福祉センターを確保できないか。高齢者や障害者にとっても社会との接点になり、子育て支援センターの機能があれば、若い世代の利用も増えると思うが、町長の考えを伺いたい。

答

福祉センターの
あり方を検討する

町長 総合会館内に社会福祉協議会、包括支援センター、ファミリーサポートなどの福祉担当部署を配置し、この春には旧社協事務所を改修し、ボランティアや障害者の活動拠点となるよう整備した。しかし、施設の老朽化や不便ということもあり、福祉の施設のあり方を検討しなくてはならない時期にきていることも確かだ。将来を見据え、福祉センターのあり方、建設場所について、町民や議会のご意見を聞き、検討を進めていきたい。

問

協議会の
状況報告は

次世代育成支援対策の協議会、要保護児童対策地域協議会については、開催状況や報告がよく分からない。重要な協議会であり、計画と事業の検証が必要だが、現状を伺いたい。

目標と実績の
検証をきちんと
していきたい

答

町長 次世代育成支援対策は、平成二十六年までの十年間の行動計画を、十七年三月に策定し、前期五年、後期五年の目標値を定めて進めているが、ご指摘の通り目標と実績を照らし合わせて検証する必要がある。要保護児童対策は実務者会議を開催し、情報交換を継続的にを行い、対応している。

答

福祉課長 次世代育成支援推進協議会は十七年、十八年度は開催したが、十九年度は開催されず、まとめがなされていない。早急に開催し、問題点の検証をしていきたい。



子育て支援センター

こ こ が 聞 き た い !

一般質問

Q

地球温暖化防止対策への提案

A

意識啓発、環境教育に
取り組んでいきたい

保坂 明子 議員

ている。

京都議定書の二酸化炭素削減目標期限も二〇一二年に迫り、今年七月開催の洞爺湖サミットも、地球温暖化防止が主題と

なっている。

昭和町でも二月に上映された映画「不都合な真実」や、家庭用の廃てんぷら油を回収して、バイオディーゼル燃料化するなど、地球温暖化に対する町民の意識も少しずつ高まっているように見受けられる。そこで次の四点を提案する。

①役場職員が一丸となり、

ユニークな取り組みを展開していただきたいと思うが、いかがか。

答 町長

①役場職員の温暖化防止活動の取り組みを町民にアピールし、啓蒙啓発活動に全力を注いでいきたい。

③町民は「自分一人でも、どう取り組めばいいのかわからないなど、実際の削減効果や情報不足からなかなか実践が進まない現状と思われる。身近なところで町民の環境学習の機会をつくるなど、意識を変えていくことが必要だ。

④標語募集や横断幕の方法も考えられるので、参考にさせていただく。

答 教育長

②小中学校

の環境教育は、総合学習の時間の中で、環境と人間生活をテーマに学習している。押原小学校や常永小学校では、外部講師を招いて地球温暖化などについて学習しており、なお一層取り組んでいきたい。講師派遣制度についても、学校と協議して検討していきたい。



押原小学校に設置されている風力発電

問 人間活動から排出された二酸化炭素などの温室効果ガスにより、地球の温度が年々上昇している。このまま進むと二一〇〇年には最大六・四度の上昇が予測されている。気温の上昇が二ないし三度を超えると、生態系や食料生産、水資源など、すべての面で深刻な影響が出ると予測されている。

温暖化と異常気象の関係も指摘されており、異常熱波や集中豪雨による気象災害が拡大している。北極圏の水溶解による海面上昇も懸念されており、気温の上昇幅を二度に抑える長期目標が立てられ

町政を問う



沼公園の概要



田中 博愛 議員

Q

沼公園にホタルの飼育施設を

A

公園のあり方を

検討していきたい

問

紙漉阿原の沼公園は、町内でも希少な湧水の自噴地帯で、ヨシやキシノウエなどが群生し、昔ながらの自然環境が残っており、毎年ホタルが自然発生している。今年五月、私も何回か足を運び、想像を絶するホタルの光に驚いたが、山梨日日新聞にも大きく報道された。

この沼公園にホタルの飼育施設を設置し、町民が生態系を観察しながら自然環境に心をやすめ、場所として、また子どもたちの教育や郷土愛を育てる場所として、考えていくべきではないか。

昭和町にとっても、都市開発と自然環境のバランスの取れた、すばらしいまちづくりの拠点になると確信する。

議員研修で、愛知県阿久比町の「ふれあいの森自然公園」のホタル飼育



紙漉阿原の沼公園

施設を視察したが、毎年たくさんの方々が飛び交い、ホタル鑑賞会には多くの見物客が訪れている。予算的にもそれほどかからないとの説明だった。

町当局の敏速な対応で沼公園の整備も進み、感謝しているが、全面完成に併せて、ホタル飼育施設の設置を要望する。

答

町長 昭和町源氏ホ

タル愛護会の皆さんが一貫して、自発的・継続的に活動をされてきた

ことに敬意を表します。私も愛護会の一員ですが、町としても愛護会と連携し全面支援を基本に、共同して進めていく考えだ。愛護会は「押原の杜」

をホタルの舞う公園にと、園内の人工池や水路に幼虫を放流してきたが、押原小学校の建て替えに伴い、「押原の杜」は学校園として改修することになり、愛護会としては今後の方針を町に提言した。「ホタルは自然の川で生きるもの」であり、人

口の公園や施設などでの育成から、町内の河川や水路での育成に徹していくというものだ。

このような考えに基づき、平成十七年からは河川整備の終わった鎌田川を中心に、紙漉阿原湧水路一带に加え、可能性のある河川や水路に幼虫の放流をしている。都市化の進む昭和町の河川にホタルが生息し、鑑賞できる環境づくりのためには、日常的な継続した啓発活動と、町民の共通認識、環境保全の合意づくりが大切であり、「広報しゅうわ」にも愛護会の基本的な考え方や活動報告を掲載している。

今回沼公園の町移管にあたり、田中議員のご提言をいただいたが、先に「押原の杜」改修工事の中で、老朽化した飼育小屋を新設した。複数の飼育施設が必要かどうかも含め、愛護会の沼公園への要望も諮り、湧水の里沼公園が、名実ともに自然公園として機能するよう、検討していく。

委員会 れぽ〜と



常任委員会

総務 常任委員会

委員長 遠藤辰男

六月十九日午後一時半に開会し、付託された一般会計補正予算および条例の改正、廃止の件、財産譲渡の件を審議の結果、いずれも原案の通り可決すべきものと決定しました。

教育厚生 常任委員会

委員長 樋口敏夫

六月十八日午前九時に開会し、委員会に付託された国保税条例改正の件および一般会計補正予算の所管事項について審査した結果、原案通り可決すべきものと決定しました。また、請願二件を審

産業土木 常任委員会

委員長 塚原將司

六月十九日午前九時に開会、付託された町営住宅の設置及び管理条例の改正の件および一般会計補正予算の所管事項について審査し、原案通り可決すべきものと決定しました。

査し、「昭和町『郷育の日』制定のための請願」は趣旨採択とし、「教育の機会均等及び水準の維持向上を図ることのための請願」、「子宮頸がん予防ワクチンに関する意見書の提出を求める請願」の二件は採択と決定しました。

地方分権対策 特別委員会

委員長 河田あけみ

六月十七日午前九時五〇分から全委員出席して開会しました。

①ふるさと納税制度の進め方
②議会前の議案等の町民への公開について
③押原公園についての経過報告があり、議会前の議案等の町民への公開については今後議論を重ねていくこととしました。

その他の件については継続調査としました。

水源対策 特別委員会

委員長 田中博愛

六月十七日午前九時から、委員全員出席して開会しました。条例に基づく届け出および許可はなく、国母工業団地内の松下電器跡地と釜無工業団地内の浅川熱処理の地下水汚染の改善後の現状報告を受けました。その他の件については継続調査としました。



会議中にホットひと息

視察研修報告

産業土木常任委員会

中巨摩の焼却灰の最終処分場を視察

▼視察日時

・六月二十六・二十七日

▼視察場所

・茨城県茨城市

・(株)向洋産業処分場

各家庭から出るゴミは

中巨摩広域事務組合清掃

センターで焼却され二五

〇分の一の量になります

が、この焼却灰は三〇〇

キロ離れたこの処分場に

運ばれています。年間各

地から四万〇四万五千立

方mの焼却灰が運ばれて

おり、一〇年で埋立てが

満杯になると植林し、一

五年で山に戻す計画です。

・茨城県等間市

エコフロンティアかさ

ま、(財)茨城県環境保全

事業団

県が二四〇億円かけて

建設した最新の施設で、

溶融処理施設を備え、焼

却灰をさらに五分の一に

するものですが、茨城県

内の焼却灰しか処分しま

せん。併設されている住

民の環境学習施設も視察

研修し、改めてリサイク

ル推進の必要性を強く感

じました。

(塚原将司・記)

広報編集特別委員会

群馬県昭和村の議会広報に学ぶ

▼視察日時

六月二十三・二十四日

▼視察場所

・群馬県昭和村議会

人口七、八二四人、議

員定数一六人、農業中心

の町でコンニャク生産は

日本一、野菜生産も盛ん

で遊休農地ゼロ。

・全国議会広報コンク

ールで十八年度入選・十九

年度奨励賞を受賞してお

り、親しみやすい広報を

目指し、住民登場企画を

掲載、大きな文字と簡潔

な記事、わかりやすい見

出し、写真の活用を心が

け、重要な記事をトップ

に置くなど工夫していま

す。

▼感想

編集委員自らレイアウ

トや写真撮影にも取り組

み、編集全体を把握し、

読まれる広報づくりに熱

意を持って取り組んでいる

こと、他町村広報の良

い所を積極的に取り入れ

ている点にも敬服。

行革の町・中之条

・群馬県中之条町議会

人口一万七、二五二人

議員定数一六人、四万温

泉がある温泉地で、名産

は「そば」。

・平成十七年度から行財

政改革を推進、二十一年

度までの五カ年計画で進

めている。財政力指数は

〇・四三と低く、無理な

▼感想

行革は職員の環境改善

で終わってはならず、住

民のための改革という大

原則を忘れてはならない

改革は現状を否定するこ

ろから始まるのかもしれないと痛感した。

(河田あけみ・記)

昭和町のゴミ焼却灰もここで処分



最終処分場で説明を受ける産業土木委員



昭和村を研修する
広報編集委員

昭和町に住んで良かった!



昭和町の魅力



清水新居

降旗木日子さん

昭和町に住み始めて三年。夫婦ともに県外出身者の私たちが飛び込んだ環境は、温かいものでした。伝統ある行事や地域活動が盛んで、私たちを自然に受け入れてくれました。昨年、長女を出産してからは、近所の方がいろいろと心配してくださり、声をかけてくれます。

先日、車のライトを点灯したままにしていた時のこと。近所の方が知らせに来てくださり、感激しました。利便性の高い場所でありながら、人情味あふれる地域です。

子育て奮闘中の私は、子どもと近所の児童センターや図書館のお話し会に通う毎日です。充実した行政サービスに「昭和町で良かった」と実感しています。そして、一緒に娘の成長を見守ってくれる地域の目があること。それは、私たち家族にとって、とても魅力的な環境だと思っています。

住んでよかった町

日本一を目指して



築地新居

玉川秀城さん

私が昭和町に越してきたころは、昭和バィパスが完成間近で活気にあふれ、私も家族は大きな夢と希望を抱いて、新しい生活を始めたのが、つい昨日のように感じられます。

昭和町に住む人の心は温かく、すぐに仲間として迎えてくださり、親切に導いてくださいました。月日の経つのは早く、当時小学生だった子どもたちが、孫の顔を見せてくれる昨今となり、住んで二十年の楽しい思い出を刻んできました。

その間、日本の社会は大きく変わり、昭和町も例外ではなく、我が家の隣の小川にはメダカやフナがいっぱい清水に泳いでいましたが、今では考えられないこととなりました。これからは、地域住民と行政との協働で、お互いの知恵を出し合い、より効果的なまちづくりが求められているのだと思います。

住んでよかった昭和町が、日本一になることを目標に、元気なまちづくり（にぎやかづくり、きれいづくり、人づくり）の仲間になり、協力していきたいと思っています。

編集雑感

私は、平成十九年四月の町議会議員選挙において、初めて議員となり、議会広報編集委員に選任されました。

昨年三月までは、区長として六年間活動させていただき、この間、毎月全世帯に配布している区の広報に、行事・話題・役場からのお知らせ等を掲載してきました。

六月二十三日～二十四日に、議会広報編集委員メンバー六人と事務局で、群馬県昭和村と、中之条町へ研修・視察に行ってきました。この視察で学んだことを、できることから実行し、町民の皆様により一層愛読される「ぎかい広報誌」を目指して努力していきます。

皆様のご意見をお待ちしております。
(河住保茂・記)

○議会広報編集委員会

委員長 萩原 馨

副委員長 保坂 明子

委員 河田あけみ

河住 保茂

野中 敏美

塩澤 浩

○昭和町議会事務局

二七五―八八四二(直)

二七五―二二一一(代)

(内線 二五〇)